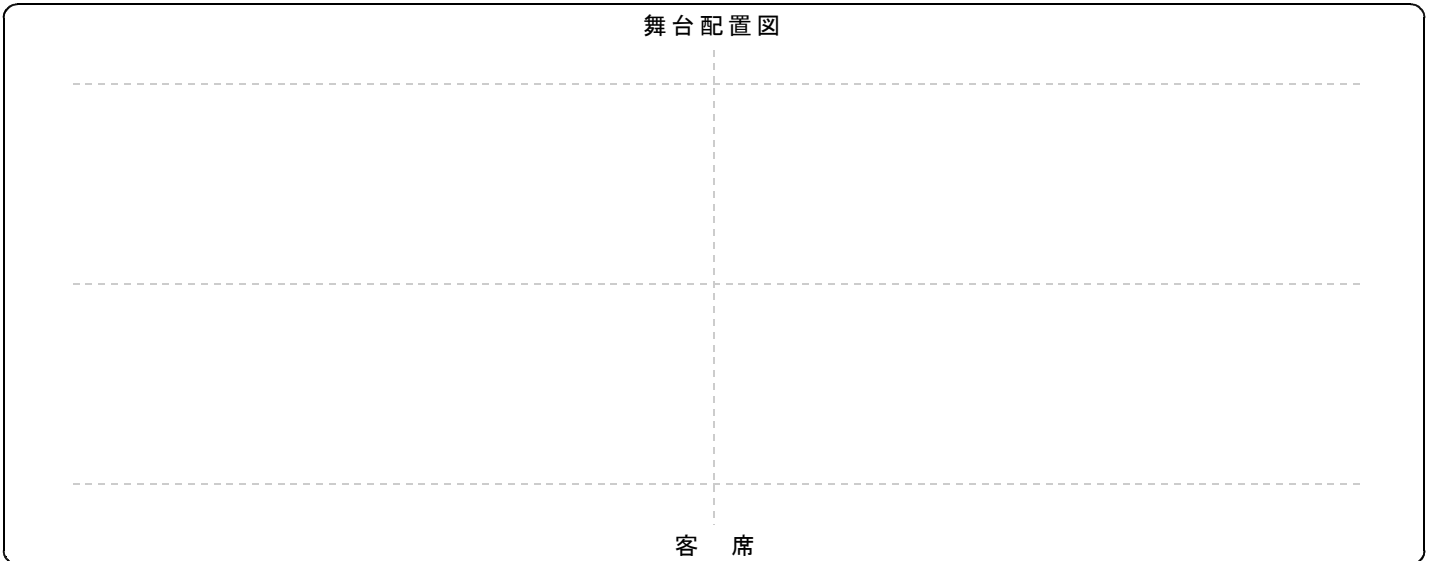


No.	音・きらゝ	演奏者数	演奏時間
-----	--------------	------	------



表示記号一覧	一 箏	=17絃	+三絃	0 尺八	≠ 他楽器	*マイク	□ モニター	□ 毛氈	W 屏風
立 奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座 奏	琴台	台	見台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他		
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44		編成：1箏							2箏			17絃				
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾				
箏1	G	C°	D°	F°	G°	G#°	A°	C°	D°	F°	G°	G#°	A				
箏2	箏1と同調絃										ハーモニックス箏1は四～為			箏2は二～十			
17絃	D	F	G	G#	A	C	D	F	G°	G#	A	C°	D	F	G	G#	A
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	1	2	3	4	5	6	7

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1991年 委嘱者 渡辺英代 構成 箏 I・II・十七絃 時間 10分 出版楽譜 ミュージックエス

解説 子供の頃、万華鏡の不思議さに魅せられた想いが懐かしい。中学生になって、その種明かしが、三角形に張り合わせた鏡の筒の底に、色ガラスの屑が散らばっているだけだと知ってからも、あの鮮やかな色彩と、思いもかけぬ図柄の変化に一種の幻覚を見るようで、ときめきにも似た興奮を覚えていた。覗き口とは反対側の明り取りから入る光を加減することによって変わる色あいも楽しいし、筒を廻す時に、ガラスの屑が触れ合って出る微かな響きも耳に心地いい。この曲の最初の部分は、その響きの印象から始まるが、各パートは、八分、三連、五連音符と、それぞれ同じ枠の中で同時に働くため、そこに生じるリズムのづれが意外な音のひろがりを見せていく。1991年作曲。 [作曲者] 収録媒体 ー